



サンラインの強靱でしなやかなハリス「ブラックストリーム」。オナガや大サバの猛襲に2号を使用して迎撃!!

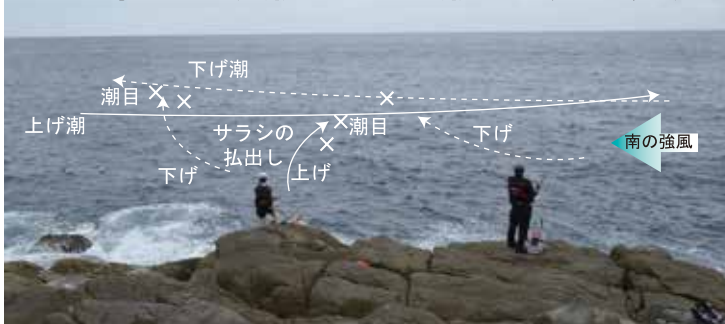
☆大サバ☆ パラダイス



大隅半島船間一帯

夏オナガ連発! @ @ !

■風対策に重めの仕掛けで、
払い出す潮から沖の潮目付近へ流す



道系：サンライン
ブラックストリーム
マークX2号

ウキ止め 3ヒロ

ウキ：釣研
ハイパー
レスキュー
G4 等々

Tクッション
G4 極小サルカン

★当日の仕掛け例

ハリス：サンライン
ブラック
ストリーム2号

2ヒロ半

リール：ダイワ
トーナメント
ISO-Z競技
2500LBD

ハリ：がまかつ
競技くわせ 7号

ロッド：がま磯
マスターモデル
ロ太 F5.3

早くても3〜4分はかかり、ドラグをやや緩めにしないと、のされて高切れとなりそう。そのパワーは青物の良質な栄養分の賜物、どこまでもバタバタと走り続ける!

7月28日 中潮 満潮 10時15分、干潮 4時27分 16時31分 (佐多大泊)

釣り客3人を乗せ午前5時に船間港を出港した加奈丸・前原船長は、南へ走り、観音平を回った磯へ上礁。帰り際に船長が「ここがポイントですから」と、船上から海面を指して丁寧にアドバイスして下さる。サラシの出ている釣り座から15m付近の所だ。数日前にも、良型クロが6尾ほど上ったらしい。夜釣りでは、イサキの2ケタやシブダイの釣果があり、時折大サバも回避してくるとのこと。早朝の磯にはボツボツと夜釣りの方が納竿を迎えている様子だった。

西風が何日も続いており、風裏の大隅東岸はシケではないが、南から回り込む風が強く、磯際は波立ち気味で、サラシも程よく出ている。背後の緑生い茂る大隅山地から回り込む風は涼しく、なんとかしのげそう。当日の桜島上空の風は西10〜12mで、この位の風があると大隅東岸は夏磯でもけっこう行けて、ぎりぎり日中釣りができて幸いだった。水温の上昇も長引く西風で抑えられているのか、意外に低く、「25度前後位じゃないかな」とのことだった。

マキエを作り、仕掛けをセットして6時過ぎからの竿出し、上げ潮は南下だが、南風が強く、海面は北上気味のやや二枚潮傾向だ。風で道系も取られやすく、対策と

してウキの浮力より重めのガン玉を打ち底潮に合せると、早速、良型のオナガが上って来た。その後は、マキエが効いたのか、良型のサバが立て続けに上ってきた。7時頃には、先の船長の言われた釣り座で40cm級のオナガもアタって来た。釣り座より払い出すサラシからの潮筋と南下する上げ潮の当る所で、マキエが溜まり易い格好の潮目だ。釣りダナは3ヒロほど。釣り座より15〜20mほど沖の潮が南北どちらかに流れ、釣り座から払い出す流れが自然とそこに吸い込まれて行くと、釣り易く高確率な大隅東岸の感度良好なヒツトパターンとなる。

そして、マキエが効き出すと、この沖の潮筋が思わぬお土産を呼んでくれる特典・サービスタイムがあるのも嬉しい! この日は正に大サバパラダイス! 特に、まさか大サバが来るとは思わず、途中で竿を休め20分ほどマキエを撒いたのも効いた様子で、群れを呼び居つかせた。

大サバの強い引きは、瀬際に寄せ浮かせてからもさらに突っ込んで、瀬を回ってハリス切れもありもの凄い。やりとりは手を焼き、

入れ喰いサービスタイムは8時過ぎから始まり、多少のムラはあるものの、下げ潮になった11時過ぎまで続き、良型のオナガもボツボツ交じって、2ケタ釣果となった。すっかり入れ喰いを楽しんだ1時過ぎにはゆっくりと納竿とした。

この大サバは、どこでも釣れるという訳ではなく、特に、観音平一帯で釣れているようだ。水深も沖目は40〜80mと深く、潮通しも良い。木々山々からの養分が直に海に流れ込み栄養豊か。滝も多くあって、まさに森は海を育てる一帯。まして梅雨明け後は、特にいいのかも知れない。

今後は秋磯が待ち遠しい所だが、水温の降下を見計らって出掛けてみても面白そう。当日のように、水温25度前後ほどならば、好釣果も期待できそう。今回はそれほどでもなかったが、エサ盗り対策も考えて、秋磯一番乗りで楽しもう!



■取材協力・船間一帯を案内してくれる加奈丸さん(前原船長)
携帯090-1878-7204